

女子戦評

大会名 第65回全日本バレーボール高等学校選手権大会 青森県代表決定戦

日時 平成24年11月3日～4日

会場 青森市民体育館

女子決勝（11月4日）

弘前学院聖愛高等学校 3 $\left\{ \begin{array}{l} 25 - 23 \\ 25 - 10 \\ 25 - 8 \end{array} \right\}$ 0 三沢商業高等学校

ファーストレフリー 小林 秀 樹

セカンドレフリー 工 藤 紳 吾

8年連続10回目の選手権大会出場を目指す弘前学院聖愛高等学校（以下聖愛）と8年ぶり3回目の出場を目指す三沢商業高等学校（以下三商）の対戦。第1セット序盤は聖愛のミスが重なり、三商の3年生堀内、山端のスパイクも決まり三商リードでゲームが展開される。聖愛タイムアウト後、聖愛熊野のスパイクが連続で決まり聖愛が同点に迫りつく。その後も聖愛が三上のスパイクで加点していくが、三商も粘りを見せ、堀内のブロック、スパイクが決まり逆転し、聖愛2回目のタイムアウト。終盤も聖愛のサーブレシーブが安定せずなかなかリズムに乗れないが、館山のサービスエースで逆転する。三商も橋本、山端のスパイクが決まり、一進一退の展開でゲームが進行するが、最後は三商のサーブとブッシュが連続でミスとなり、25-23で第1セットは聖愛が先取する。第2セット序盤は聖愛のサーブ、スパイクが効果的に決まり一気にリードを広げ、2-9で三商が2回目のタイムアウト。その後も猪股の連続サービスエースや三上のスパイクでリードを広げていく。三商も橋本や山端のスパイクで応戦するが、その後も聖愛の高いブロックと熊野、三上のサイドスパイクが決まり、25-10で第2セットも聖愛が連取する。第3セット序盤はお互いのフェイントが決まりシーソーゲームが展開されるが、聖愛が浅利のスパイクで抜け出し6-11で三商タイムアウト。その後三上のブロックや、熊野のサービスエースで7-14とリードを広げ、三商2回目のタイムアウト。しかしその後も聖愛今井のフェイントが効果的に決まりリードを広げていく。リズムに乗った聖愛が速いテンポのゲームを作っていく、レシーブにも粘りが出て最後は三上のスパイクが決まり25-8で聖愛が8年連続10回目の選手権大会出場を決めた。

戦評者 村元 直記